

1. 略歴

- 1981.03 東京大学文学部印度哲学印度文学専修課程卒業
- 1981.04 東京大学大学院人文科学研究科修士課程（印度哲学）入学
- 1984.03 東京大学大学院人文科学研究科修士課程（印度哲学）修了
- 1984.04 東京大学大学院人文科学研究科博士課程（印度哲学）進学（-1989.3）
- 1985.07 インド・デリー大学大学院留学（文部省国際交流計画）（-1986.05）
- 1988.04 日本学術振興会特別研究員（-1990.03）
- 1994.06 博士（文学）（東京大学）
- 1994.10 東京大学文学部助教授
- 1995.04 東京大学大学院人文社会系研究科助教授
- 2006.01-03 School of Oriental and African Studies (University of London) 教授
- 2006.04 東京大学大学院人文社会系研究科教授
- 2007.04 東京大学大学院人文社会系研究科（次世代人文学開発センター兼任）教授
- 2011.03-04 Stanford University 教授
- 2013.04 東京大学大学院人文社会学研究科教授

2. 主な研究活動

a 専門分野 b 研究課題

専門分野はインド仏教の教典形成史、および人文情報学。前者については *sutra, vinaya* の形成過程解明を通して初期仏教から大乘仏教にいたる思想史、社会背景史の解明を目標とする。ここ数年は、大乘仏教の起源について伝承の媒体変化による発生という、新たな学説を提起している。これまでの研究課題は(1)大乘仏教の形成過程および大乘仏教の特徴についての従来の研究の再考、(2)仏教学を支える近代の仏教研究方法の問いなおし、(3)仏教と現代の諸問題とのかかわりの考究、および(4)大乘仏教の起源研究という 4 点に集約される。西洋近代から生まれ、200 年の歴史を有する仏教学を検証する視野のなかにこれら 4 点を据え、仏教学の進む道を模索している。後者の課題、すなわち人文情報学については、仏教文献の電子化事業を進める過程で 10 年ほど前から本格的に着手。現在、科学研究費基盤 S「仏教学術新知識基盤の構築」のプロジェクトを中心に据え、次世代に向けた仏教学の国際的知識基盤づくりを進めるとともに、日本の Digital Humanities のモデルケースを提示しつつある。

c 概要と自己評価

大乘経典形成過程の解明については、従来主流であった社会史還元型の研究がもつ問題点を洗い直し、テキスト形成過程としての研究の方法を確立すべく、書写経典の創出と変容という新たな視点を提示した。これはことに初期の大乘経典に適合すると考えられる特徴であり、現在のテキスト研究一般の成果と連絡をつけながら、かつて注目されなかった角度からの問題の解明につながる可能性をもつ。より広い資料にもとづく検証と考察は、これから慎重に進めてゆかねばならない。

仏教学方法論の問い直しについては、現在進められている仏教研究批判のほとんどが、オリエンタリズム論の強い影響を被ったものに留まっていることを批判的にとらえ直し、仏教学の資料の現状と方法の特性を照合せながら、現実的な研究方法の確定を急ぐ必要がある。

人文情報学にかんしては、ことにこの 5 年ほど、蓄積した成果を国際学界において意欲的に検証しつづけたため、仏教研究が Digital Humanities という人文学新領域の構築と推進において果たすべき役割が大きく増した。すでに仏教学からの問題提起は、この新分野が伝統的な人文学を適切に受容するに相応しいものに成長しうるかに重要な影響を与える地点にまで達しており、今後、さらに慎重で精力的な貢献を目指したい。

d 主要業績

(1) 著書

- 共著、下田正弘『生と死の宗教社会学——別れの文化』（大村英昭・井上俊編集）書肆クラルテ、2014.4。（単著、下田正弘「仏教における生死——生死一如観の背景」、pp. 185-211）
- 共著、下田正弘『仏教的伝統と人間の生』（安富信哉博士古稀記念論集刊行会編）法蔵館、2014.6。（単著、下田正弘「大乘経典の出現と浄土思想の誕生——エクリチュール論の立場から」、pp. 103-118）

編著、下田正弘『フリードリヒ・マックス・ミュラー 比較宗教学の誕生 宗教・神話・仏教』（単著、下田正弘・松村一男監修）国書刊行会、2014.9。（下田正弘「近代人文学史からみた仏教学と宗教学——マックス・ミュラーの偉業——」、pp. 608-629）

共著、下田正弘『人文知 2 死者との対話』（秋山聡・野崎敏編）東京大学出版会、2014.11。（単著、下田正弘「思想の痕跡としてのテキスト」、pp. 43-62）

共著、M. Shimoda, *Brill's Encyclopedia of Buddhism*, Vol.1 (Literature and Languages), (J. Silk ed. in chief) Leiden: Brill, 2015.9 (“Mahāparinirvāna-mahāsūtra”, pp. 158-170)

共著、下田正弘『三友健容博士古稀記念論集 智慧のともしび アビダルマ仏教の展開』（三友健容博士古稀記念論集刊行会）山喜房仏書林、2016.3（単著、下田正弘「仏教研究の死角——ウィルフレッド・キャントウェル・スミスの理解から」、pp.84-102）

(2) 論文

単著、Masahiro Shimoda, “Some Reflections on Toshihiko Izutus’s Metaphysics of Consciousness: Focusing on His Interpretation of the Buddhist Philosophy on the Treatise of the Awakening of the Faith of the Mahayana,” (智山勸学会『小峰彌彦先生 小山典勇先生 古稀記念 転法輪の歩み』智山学報 75 号) 2016.3, pp. (51)-(60).

(3) 解説、論文要旨

単著、下田正弘「高崎直道「解説『涅槃経』を読む」（『涅槃経』を読む）（岩波現代文庫）、pp. 347-357、2015

単著、下田正弘「井筒俊彦の仏教思想理解」『宗教研究』別冊、89 巻、pp.103-104、2016.3

(4) 学会・シンポジウム

国際（招待）、下田正弘、「仏教学の現状と未来 ——仏教学的方法的批判について——」、東アジア仏教学四大学会議、2014.5.9

国際（招待）、Masahiro Shimoda、「Possible contributions to SPECTRESS from Digital Humanities Initiative」、Spectress Inaugural Conference、2014.5.25

国際、Kiyonori Nagasai, Masahiro Shimoda et al. “Bridging the Local and the Global in DH: A Case Study in Japan” Digital Humanities 2014. University of Lausanne, 2014.7.11

国際、Masahiro Shimoda, Dorji Wangchuk, Kiyonori Nagasaki, Toru Tomabechi et al.、「Project Presentations : Indo-Tibetan Lexical Resources」、17th Conference of International Association of Buddhist Studies, University of Vienna, 2014.8.19

国内（招待）、下田正弘「仏教学知識基盤から照らす デジタルヒューマニティと図書館の未来」（むすび、ひろくアジア：アジア研究図書館の構築に向けて）東京大学、福武ラーニングシアター 2015.1.31

国内（招待）、下田正弘「意識の形而上学をめぐって」（「井筒東洋哲学フォーラム」京都大学）2015.4.22

国際（招待）、East Asian Knowledge Database, McGill University, Canada, 2015.5.9

国際（招待）、Masahiro Shimoda, “Building Communities and Networks in the Humanities” University of Western Sydney, 2015.6.29

国際、“Some Reflections on Izutsu Toshihiko’s Metaphysics of Consciousness: Focusing on His Interpretation of the Buddhist Philosophy of the Treatise of the Awakening of the Faith of the Mahāyāna: the XXIIAHR World Congress, Erfurt, August 26th, 2015.

国際、“Mind the Gap between the Theory of Selflessness and the Concept of Subjectivity,” Subjectivity in Pure Land Buddhism: The 17th Biennial Conference of the International Association of Shin Buddhist Studies, Berkeley, August 9th, 2015

国内、「井筒俊彦の仏教思想理解の特質」（パネル「東洋の宗教思想と井筒俊彦の哲学的思惟」）日本宗教学会第 74 回学術大会、創価大学、2015.9.6

国内、「仏教の社会的実践を問うためのいくつかの課題」日本仏教学会、東京大学、2015.9.8

国際（招待、基調）“The Significance of Constructing a Buddhist Studies Knowledge Base in the Diversity of Digital Humanities,” in: UBC workshop on a global network “Paper, print & cyberspace: The perspective of a global network for the multimedia and interdisciplinary studies of Buddhism and East Asian religions, 4th October, University of British Columbia, 2015.

国内（主催）「仏教における認識と経験」東方学会秋季学術大会、2015.11.6

国際、Convener, “Dṛṣṭi: The Problems of Views and Beliefs in Buddhism,” American Academy of Religion, 2015. 11.21.

国際（招待、基調）“Significant Potentials of the Humanities in East Asia for the Development of Globally Shared Digital Humanities: Illustrative Details Provided by Buddhist Studies,” 6th Conference of Digital Archive and Digital Humanities, National Taiwan University, 2015. 12.2

国際（主催）Masahiro Shimoda “Wōnhyo’s commentary on the *Nirvana-sutra* (*Tae yōlban-gyōng chong’yo*)” Mahāparinirvānasūtra Conference, UC Berkeley, 2016.1.8

国際（主催）「HathiTrust とデジタルアーカイブの未来」東京大学福武ホール、2016.1.25

国際（招待）「大乘仏教の起源について」 Dongkuk University、Korea、2016.3.11

(5) 受賞

国内、下田正弘、毎日出版文化賞、毎日新聞社、2014.11.28

国内、下田正弘、パーリ学仏教文化学会賞功労賞受賞、2015.5.29

(6) 科研費等

研究代表者、科学研究費基盤研究S「仏教学新知識基盤の構築——次世代人文学の先進的モデルの構築」(2015-6-)

研究分担者、科学研究費基盤研究S「バウツダコーシャ」

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

武蔵野大学大学院非常勤講師

朝日カルチャーセンター講師

日経アカデミア講座講師

(2) 学会

国際、Alliance for Digital Humanities Organizations、理事

国際、International Association for Buddhist Studies、理事

国際、The Eastern Buddhist, Board Member（編集顧問）

国内、日本デジタルヒューマニティーズ学会、会長、理事

国内、日本宗教学会、常務理事、評議員

国内、日本印度学仏教学会、理事、評議員、常務委員

国内、財団法人東方学会、理事、

国内、仏教思想学会、評議員

国内、パーリ学仏教文化学会、理事

国内、比較思想学会、評議員

国内、日本学術会議連携会員

(3) 学外組織（学協会、省庁を除く）委員・役員

大蔵経テキストデータベース研究会、代表委員

大蔵経研究推進会議、常任議員、議長

一般財団法人人文情報学研究所、評議員

公益財団法人仏教伝道協会、英訳大蔵経編集委員会委員

公益財団法人石原奨学育英会、評議員

一般財団法人仏教学術振興会、選考委員

公益財団法人国際宗教研究所、監事

宗教法人曹洞宗将来構想委員会第一部会、委員

一般財団法人東京大学仏教青年会、理事